

2025年9月30日
ホンダモビリティランド株式会社

ホンダモビリティランド「サステナビリティ&エコノミーレポート2025」発行

ホンダモビリティランド株式会社(本社：三重県鈴鹿市、代表取締役社長：斎藤毅)は、鈴鹿サーキットで開催したF1日本グランプリにおける環境・社会に関する取り組みと成果を中心にまとめた「サステナビリティ&エコノミーレポート2025」を本日発行しました。本レポートでは、カーボンニュートラルの実現に向けた進捗、地域経済・社会への貢献など、持続可能な社会の実現に向けた当社の方針と具体的な取り組みを紹介しています。

【「サステナビリティ&エコノミーレポート2025」の主な概要】

- ・**F1日本グランプリ開催に伴う炭素排出量のスコープ1・2においてカーボンニュートラルを達成**
- ・**低炭素移動の推進**：公共交通機関の輸送力拡大、乗り合いタクシーやライドシェアサービスの促進により、低炭素移動手段利用率が前年から3.9ポイント上昇し64.4%に拡大
- ・**再生可能エネルギーの活用**：駐車場での太陽光発電とグリーン電力により、系統電力は100%再生可能エネルギーを使用するとともに、パドックエリアの発電機燃料は100%HVO燃料を導入
- ・**資源循環の強化**：使い捨てプラスチックの提供廃止、リターナブル容器の提供、分別回収の徹底により、マテリアルリサイクル/コンポスト比率は前年から4.6ポイント上昇し46.1%に拡大
- ・**多様性への配慮**：車イス対応の観戦席や、小さなお子様も安心して観戦できるファミリーシートの設置。会場内でベジタリアン対応メニューを導入し、多様なライフスタイルや価値観に寄り添ったサービスを提供
- ・**地域貢献**：地元企業との連携、次世代を担う子どもや若者への学びの機会創出、余剰食材を子ども食堂へ寄付

今後も、モータースポーツイベントのカーボンニュートラルに向け、これらの取り組みをさらに加速させ、モビリティ文化の醸成とモータースポーツ振興、人材育成の実践フィールドを活かした地球環境や社会課題への対応に取り組んでまいります。

■ 本レポートは当社ウェブサイトよりご覧いただけます：

<https://www.honda-ml.co.jp/company/sustainability/pdf/report.pdf>

【2025年に開催したモータースポーツイベントにおける主なトピックス】

<鈴鹿サーキット>

- ・鈴鹿8時間耐久ロードレースで、「歴史と伝統」を後世に残す持続可能な社会の構築を目指す一環として、「Le Mans Suzuka Positive Award」を設定
- ・F1日本グランプリでのサステナビリティに関する取り組み等が評価され、サステナビリティ活動を評価するスポーツ界の国際的なアワード「Sport Positive Awards 2025」ファイナリストに選出
- ・F1日本グランプリにおける余剰食材を子ども食堂へ寄付する取り組みが評価され、環境省と消費者庁が主催する令和7年度「食品ロス削減推進表彰」において「審査委員会委員長賞」を受賞

<モビリティリゾートもてぎ(栃木県茂木町)>

- ・トライアル世界選手権におけるイベント運営でスコープ3を含めたネットゼロを達成
- ・MotoGP™日本グランプリで、参戦ライダーと共に里山の生物多様性保全活動や、若年ライダーの交通安全啓発活動を実施